

## 令和7年度 呉地域医療構想調整会議 第2回病床部会 (2/10) での発言概要

議題	委員等からの発言	事務局からの回答等
<p>1 報告事項</p> <p>(2) 県単位の地域医療構想調整会議の概要について (R7.9.1 開催)</p>	<p>◆資料2-3 新たな地域医療構想等について</p> <p>・医療機関機能について (P19)</p> <p>(問) 医療機関機能の報告が新たに求められるようになるが、どのような制度か。</p>	<p>《事務局回答》</p> <p>医療機関ごとに医療機関機能に着目して、どのような機能を担うのかを各医療機関から報告する。その区分が、高齢者救急・地域急性期機能、在宅医療等連携機能、急性期拠点機能、専門等機能に分かれており、複数選択できると聞いている。今まで病棟単位で捉えられていた機能に加えて、今後は医療機関全体としての機能を報告することになる。</p> <p>その他、広域的な観点の医療機関機能として、大学病院等の医育及び広域診療機能がある。</p>
	<p>・病床機能（包括期機能）について (P20)</p> <p>(問) 病床機能について、回復期機能から包括期機能に変更されているが、包括期機能とはどのような機能の病床か。また、診療報酬の区分でいうと、何が当てはまるのか。</p>	<p>《事務局回答》</p> <p>病床機能区分について、これまでの回復期機能から、高齢者救急、ポストアキュート、サブアキュートを含めた包括期機能という概念が示され、従来の回復期よりも幅広く急性期まで含むようになる。今後そういった病床を持つ病院は包括期機能を選択して報告することになる。</p> <p>診療報酬の区分でいうと、基本的には地域包括ケア病棟、回復期リハ病棟あたりを基本として、急性期一般の一部など今よりは幅が広がると思われる。</p>

議題	委員等からの発言	事務局からの回答等
	<p>・新たな地域医療構想と医療計画のスケジュールについて (P21)</p> <p>(問) 新たな地域医療構想と医療計画は、今後どのように進められるのか。</p>	<p>《事務局回答》</p> <p>スケジュールについては、今後、国から新たな地域医療構想のガイドラインが示され、来年度以降、地域医療構想の策定や医療計画の見直しが予定されている。</p>
	<p><b>◆資料6 かかりつけ医機能報告制度について</b></p> <p>・かかりつけ医機能報告の今後のスケジュールについて (P4)</p> <p>(問) かかりつけ医機能報告の結果を受けて地域医療構想調整会議で協議を開始するのは、いつ頃になるのか。</p> <hr/> <p>・協議の場で協議する課題について (P3)</p> <p>(問) かかりつけ医機能報告の結果、どのような課題が想定されると考えているか。</p> <p>人口が少ない地域においては、課題を解決することはできないのではないか。</p> <hr/> <p>・かかりつけ医機能に関する研修について</p> <p>(問) かかりつけ医機能に関する研修はどのタイミングで受講すればいいか。</p>	<p>《事務局回答》</p> <p>報告結果の集計を4月以降に行い、関係者に説明等を行いながら、どの協議の場で議論を行うかを調整する。実際に協議の場に提供、報告するのは7月以降になる予定。各圏域の地域医療構調整会議で報告して議論をしていただくということになる。</p> <hr/> <p>《事務局回答》</p> <p>今の段階で課題というものを示せるものはない。報告・集計結果を踏まえ、各地域において不足している外来医療に関する課題について関係者で共有するとともに、対策を協議の場で議論することになる。</p> <hr/> <p>《事務局回答》</p> <p>過去に研修を修了した研修は、その受けた研修に有効期限が設定されている場合、その期限内であれば修了として報告できる。また、初年度ということで、報告期間の1月～3月末までの間に履修するのであれば、現在の時点で履修していなくても修了として報告できる。</p>

議題	委員等からの発言
<p>2 協議事項  (2) 公的医療機関等 2025 プランの  変更について</p>	<p>【済生会呉病院補足説明】  回復期医療を充実させるため、令和3年に地域包括ケア病床を100床にし、令和7年2月には急性期病床から地域包括ケア病床にさらに27床転換し、令和8年2月からは13床を転換することとし、地域包括ケア病床は合計140床となる。</p> <hr/> <p>【大君浜井病院補足説明】  ここ1、2年ほど病床稼働率が20%程度になっており、人口減少という理由から病床稼働率が戻らない状態が続き、人材確保も困難となっているため、3階部分の18床を削減して、2階部分の17床だけで運営できればと考えている。また、病院の近くに有床施設がないため、病床を有することで、地域医療に今後も貢献していきたい。</p> <hr/> <p>【眼科宍戸医院補足説明】  白内障を主とした当院で執刀している手術が低侵襲となり入院が不要となったことに伴い、実質、入院患者がない状態が何年も続いているため、病床を廃止したいと考えている。</p>